



# 瀬田の丘

創刊 1973年

編集・発行／カトリック瀬田教会信徒会広報部  
東京都世田谷区瀬田 4-16-1



今日のみことば

2020年11月22日 王であるキリスト

瀬田教会主任司祭 小西広志神父

第一朗読：エゼキエル書 34章 11－12、15－17節

第二朗読：コリントの信徒への第一の手紙 15章 20－26、28節

福音朗読：マタイによる福音書 25章 31－46節

## 今日のテーマ：王とは

最初の公会議であるニケア公会議（325年）の1600周年を記念する1925年、教皇ピオ11世（在位1922年－1939年）は12月11日付で回勅を発表し、11月1日の諸聖人の祭日直前の日曜日、すなわち10月最後の主日を「王であるキリスト」を祝う日と決めました。当時は第一次世界大戦後で、無神論や独裁体制などの影響がみられるようになった時代でした。そのような状況の中でこの祭日を定めることによって、キリストこそが人類世界を治める最高の権威者、王であることが示されました。その後、1969年の典礼暦の改定により、終末における完成とキリストの再臨への待望と関連づけて、年間の最終主日に移されることとなりました（中央協議会の解説より）。

三つの朗読から

第一朗読では牧者である神さまの姿が描かれます。神さまは牧者です。牧者は群れを養います。同じように神さまは人を養います。牧者は群れの中の最も弱いものに目を注ぎます。

『エゼキエル書』は、紀元前587年のエルサレム陥落を記す33章の前後で内容が異なります。33章以前では裁きを語り、それ以降は救いを語ります。34章は牧者と群れの比喻を用いながら、捕囚からの解放を告げます。2－10節では「イスラエルの牧者」が批判され、裁かれます。16節までは新しい牧者への神のことばであり、17節からは神に救出された群れへのことばとなります。

第二朗読に従えば、王であるキリストは、終わりの日にすべてを支配します。その支配はすでに始まっています。が、まだ完成の途上にあるのです。さらに注目したいのは、王であるキリストは父である神にすべてを明け渡すのです（28節参照）。そんな王です。

福音朗読に「来るとき」とあります。王はおいでになる方です。待ちわびるのはわたしたちです。待ち続けるその間に王の兄弟に対してどのように振る舞ったかが問われるのです。

## 説教

マタイ福音書 24 - 25 章は「終末」、「世の終わり」と関連する箇所です。

「忠実な僕と悪い僕」(24章45 - 51節)、「十人のおとめ」(25章1 - 13節)、「タラントンのたとえ」(14 - 30節)、「最後の審判」(31 - 46節)と続きます。

今日の朗読箇所は、全体として二つの裁きに分けることができます。

1. 羊飼いがするように、人の子(イエス)によるすべての民族の選別(32 - 33節)
2. 王による裁き(34 - 46節)

選別はどのように行われるのでしょうか。「すべての国の民(32節)」は、原文はパンタ・タ・エスネーで、28章19節で復活のイエスが弟子たちに与えた命令の中にある「すべての民」も同じ表現です。福音が「あらゆる民へ…全世界へ宣べ伝えられる」(24章14節)。その後で世の終わりが来る。そのため、ここでの「すべての国の民」とは福音を聞いた人びとを指します。その中で、「わたしの兄弟であるこの最も小さい者」……小さい者を使徒たち、あるいは福音宣教者と考える解釈も成り立ちますので、福音を伝えて歩いている人々を受け入れた人が羊として右により分けられる。

また、「わたしの兄弟である」という表現から見えてくるのは、「王」と「最も小さい者」とは同列だということです。そうしますと、王自身が(神の子であるイエス自身が)「最も小さい者」になっているという点が興味深いですし、見逃すわけにはいきません。

ここでパウロの手紙を思い出してみましょう。パウロは、「死者の復活」を否定することのむなしさを説きます(12 - 19節)。というのも、コリントの教会の中には、自分たちは神に近い存在で、すでに完成しているので、終末におこる死者の復活は意味がなく、待つ必要もないと考える人々がいたからです。パウロは「勝手に王様になって」いるコリントの人々を非難しています(4章8節)。「国を支配する」のは王であるキリストご自身だけだからです。

## ひとこと

三つの朗読の中に主イエス・キリストを指す呼び名が様々に散りばめられています。

福音朗読では「人の子」、「栄光の座に着く(方)」、「羊飼い」、「王」、「主よ」、「兄弟(ヘブ2章10 - 14節参照)」。

第二朗読では「キリスト」、「国を支配する(方)」、「御子」。

第一朗読では「主」、「牧者」。

牧者、羊飼いであるキリストは、人の子であって、全き人。しかも、最も小さい者にとっての兄弟です。この方が王として来られ、すべてを支配します。

わたしたちは王であるキリストのもとに一つに集められます。ですから王は、世界の中心にいるといえます。